

令和4年度特別の教育課程の実施状況自己評価表（西大和学園中学校高等学校）

目指す学校像	磨かれた「知」を備え、豊かな人間性を持ち、世界を舞台に活躍する次世代を担うリーダーを育成する。
重点目標	1. 英語を含む外国語の4技能（聞く・読む・話す・書く）を習得。
	2. 中学3年次（アメリカグローバル研修プログラム）、高校1年次（海外探究プログラム）等の実践の場で4技能を使用するために必要な5つの力（主体性・協同性・思考力・判断力・表現力）を習得。
	3. グローバルな視野を広げ、世界で起きていることを自身に置き換え行動することのできる3つの力（多様性・課題発見力・課題解決力）の習得。

達成度	A	ほぼ達成（80%）
	B	概ね達成（60%以上）
	C	変化の兆し（40%以上）
	D	不十分（40%未満）

学校評価			
年度目標		年度評価	
No	課題項目	具体的な方策	課題項目の達成状況
1	4技能の習得	英語の授業 中学1年次から授業時間を週5時間確保し、中学英文法の指導を中心に行っている。又、音声活動も重視しており、洋楽を取り入れ、発音・リスニングの指導に力を入れている。中学2年次には、学習進度を早めることにより、従来より早期から幅広い表現を使えるようにする。また、中学2・3年次にはこれまで週1時間設けてきた多読の時間を、(株)コスモビアの「eステーション」を用いて自宅でも学習できるように変更し、速読力・類推力を養う。加えて、講読中に気になった表現や印象に残ったフレーズから、検定教科書や入試問題演習では養われない実用英語に触れる機会を増やしている。	肯定的な意見が中学3年生では約83%、中学2年生では約84%であった。高校編入1年生で肯定的な意見が比較的少ない(70%弱)理由としては、コロナウイルス蔓延の余波のため、予定していたテストや発表、または外国語を使用する行事など、英語を実践的に使用する機会が他学年に比べて少なく、自身の4技能の習得の実感が低くなってしまったことが考えられる。
		国際理解 中学1年次は週2時間、中学2・3年次には週1時間、クラスを半分ずつにしてネイティブスピーカーにより、リスニングやスピーキングに加えて、グループワークやディスカッション、速読などの活動を総合的にしている。	
		イマージョン 中学3年次と高校編入1年次に体育、音楽の実技教科をオールイングリッシュで実施し、実際に体を動かしたり、実技演習を進めていくなかで自然と語彙・表現を理解し、その習得を目指す。	
2	主体性	英語の授業 自主課題や任意参加の講座を数多く設けることで、自らのニーズに合わせて英語力を総合的に伸ばしていく契機を用意する。	肯定的な意見が中学3年生2年生ともに約70%、中学一年生では約80%であった。比較的高い積極姿勢ではあるが、結果としては昨年度からの変化はなかった。
		国際理解 必ず毎月1～2回、自分の意見をクラス全体で語る場を作り、全体の前で発表する機会を設ける。	
		オンライン英会話 中学2・3年次に1カ月に3回の頻度でオンライン上でネイティブスピーカーとの1:1のやりとりを実施し、自ら進んで会話をつなぐことでリスニング、スピーキングの能力伸長を目指す。	
	協同性	国際理解 グループワークを頻繁に行い、毎回指導に携わる構成員を変えることで、様々な生徒と1つの課題に取り組み、支え合う機会を設ける。	全学年で約70%の肯定的な意見があった。昨年度から大差なく、他者との交流の意識が生徒間で薄れてきていると考える。
		イマージョン 体育における運動や、音楽における実習のなかで、課題に対し協同して取り組む機会を設ける。	
	思考力	英語の授業 検定教科書や英字新聞の読解、英語プレゼンテーション動画を視聴し、国内にとどまらず、国際的な諸問題について英語で情報を収集し理解を目指す。	肯定的な意見が全学年で約70～80%であった。昨年に比べて授業内で思考力育成を達成出来たと感じている生徒の割合が減少している結果であった。
		国際理解 グループでのディスカッションを通じて、他者の意見に耳を傾け自身の意見との共通点や差異に注目し、多面的な思考力を養う訓練を行い、グループの意見をまとめ発表する場を設ける。	
	判断力	英語の授業 年度途中から1学年上の題材を扱い、より抽象度の高いトピックに関する知見を学ぶことで、より批判的に物事をとらえる力を醸成する。	昨年度に引き続き、肯定的な意見が全学年で約75%程度と改善傾向にある。抽象度の高い教材を使用していることもあり、生徒達の分析力は上がっているといえる。
		国際理解 様々なリスニング、リーディング教材を通じて、判断が一筋縄ではいかない内容について多様な価値観を理解する。又、教員と生徒との間での話し合いを通して、価値観を共有する。	
		イマージョン 授業でネイティブスピーカーにより提示される課題について、自分の考えをまとめ、一つの意見を提示するトレーニングを行う。	
	表現力	英語の授業 中学3年次のアメリカグローバル研修プログラムに向けて、アメリカ合衆国についてまとめたレポートやホストファミリーへの自己紹介文の作成を英語で行い、教員の添削をはじめとした指導を通じて、正確かつ洗練された表現を会得する。	肯定的な意見が中学2年生83%、中学3年生81%・高校編入1年生72%であった。中学3年生は昨年度の結果から考えると10%程度大きく改善されている。中学3年生ではアメリカ研修もあり、実際に活用できる場があったことが生徒達の実感にもつながったと考える。
		国際理解 中学1・2年次は、身近なテーマをもとにグループワークや発表・プレゼンテーション等を通じて、自身の考えを相手に伝えるための技法を習得する。また、中学3年次のアメリカグローバル研修プログラムに向けて、ホストファミリーや現地校での会話、ディスカッションを想定したペアワーク及びグループワークを実践する。	
イマージョン 音楽や体育の授業において、英語でのやり取りを通じ作品を完成させ、発表を行う。			
オンライン英会話 ネイティブスピーカーとの1:1の英会話の中で、自身の言いたいことを伝える機会を多く設ける。			
多様性	国際理解 ディスカッションにおいて、一つの意見を正解とするのではなく、様々な意見を正確に理解し共有できるよう促す。	肯定的な意見が中学3年生で約75%、中学2年生で約82%であった。高校編入1年生では約76%と昨年度から15%以上向上した。海外探究プログラムなど多様性を実感できる活動の実施にはまだ制約があったものの、校内での活動の充実が一定の評価を得たものと思われる。	
	オンライン英会話 毎回異なるネイティブスピーカーが担当し、馴れ合いにならず、常に新しい視点を提供する。		
3	課題発見力 多読やオンライン英会話において、異文化にふれることで、自身のアイデンティティを見つめ始めるきっかけをもち、日々の活動においてプレゼンテーションを授業の形として取り入れることで、他者とコミュニケーションを取りながら、歴史や分野、社会情勢に興味関心をもつ機会を得る。中学3年次、高校1年次には、希望者を対象に(株)ナガサが主催するグローバルイングリッシュキャンプを校内実施し、国際人としてステップアップするために必要な考え方を得る機会を設ける。	肯定的な意見は中学3年生で約59%、高校編入1年生で約67%であり、昨年度から前者で微減、後者で微増という結果になった。プレゼンテーションなどのアウトプットの機会のさらなる充実が求められよう。	
	課題解決力 授業中において自身の見つけた課題をグループで共有し、ディスカッションを通して自身が体験したことや他者の意見から自身の考えをまとめ、全体での発表の機会を設ける。	肯定的な意見は中学3年生で約69%、高校編入1年生で約67%であり、「課題発見力」同様、こちらも昨年度から前者で微減、後者で微増という結果になった。ディスカッションや発表で終始せずに、実際に行動に移すような機会を設ける必要がある。	

学校関係者評価	
意見・要望など	
<p>・オンライン英会話については、前年度の課題であった到達度の可視化について、生徒自身のCan-Doリストを導入したが、その効果をより精査していきたい。</p> <p>・イマージョン教育は、授業時間数の影響より本来であればより多くの時間を割き、集中的に行うべきであるが、単位数をこれ以上増加させることが難しいことを鑑み、単位、廃止の方向性も検討していくべきである。</p> <p>・様々な英語の取り組みが、どのような関連性を持っているのかカリキュラム・マップのような形で示すことはできないか。また、これらの取り組みすべてが大学入試結果にどのような効用を持っているのかそろそろ検証を始めたところであり、今後カリキュラムの見直しが具体的に示されることを期待したい。</p> <p>・ネイティブ講師による取り組みが授業以外に見えにくい。学校としてどのような取り組みにネイティブ講師が必要とするかを決めていく時期ではないだろうか。</p> <p>・中学入試において英語重視型入試での入学生徒への対応が十分とは言えない。イマージョン教育をはじめとするオールイングリッシュの授業や課外活動なども実施してはいるが、中学1年生の4月より英語の学習を始めた生徒と同じカリキュラムであることが実情である。中学段階において、選抜型や能力別授業というのは難しいとは思われるが、彼らへの柔軟な対応が具体的に構築されていくことが求められる。</p> <p>・海外大学（主に英語圏）への進学への対応の組織化・体系化に向けプロジェクトが発足したが、具体的な取り組みが共有される必要がある。</p>	
その他の取り組み	
<p>1：模擬国連 対象：高校1年生・高校2年生</p> <p>2：次世代リーダー養成プログラム 対象：高校1年生・高校2年生</p> <p>3：エンパワメントプログラム 対象：中学3年生・高校1年生</p> <p>4：アクションイノベーションプログラム 対象：高校1年生・高校2年生</p>	